

【第3回会合における主な議論】

【1. 電波の安全性等に関する研究ロードマップの見直し】

- 今回提示されたロードマップの修正案は、ICNIRPのガイドラインが今後どのように検討されていくかという想定とも合致しており、この分野の国際的動向を良く踏まえたものになっていると思う。
- （科学的に確立されていない作用に関する）特に標準化に関する課題について、必ずしも2040年度の状態を今から見通すことは困難であるため、例えば、ロードマップ上では2040年度付近は破線で表現しても良いのではないか。
- 今回提示されたロードマップの修正案は、NICTと産総研で作った「計量標準・校正技術に関するロードマップ」とも整合した内容となっており、新しい周波数等に向けた測定器の観点からも、合理的なものと考えられる。
- リスクコミュニケーションについて、国民の多くが不安を感じている無線システムについては、客観的に説明できるべく露レベルのデータを取得していくことも重要だと考えられる。海外でも（リスク）コミュニケーションの観点から、現実環境におけるばく露量のモニタリング研究を実施していたので、国際動向とも合致しているのではないか。

【2. 電波の安全性に関する情報発信・啓発の在り方】

- リスクコミュニケーションに関する研究は、そこで得られた知見を実際に問合せ等に対応している中立的な組織の、例えば、電話相談窓口の方が活用できるような形などを検討していくのが良いのではないか。
- ICNIRPにおいても、コミュニケーションの検討をするグループが立ち上がり、サイエンスコミュニケーターの知見も活用しつつ、一般の方向けのコミュニケーションの検討をしているところ。
- 情報発信について、ショート動画との提案は良いと思う。若者によく情報が届くよう、消費生活相談でもショート動画を活用している。例えば、ショート動画や漫画といった、わかりやすい手段が活用できないか検討するのが良いと思う。

【3. 近接結合型WPTについて】

- 総務省が型式化の検討をする際に、他の無線システムと混信が起こるかどうか等の必要なデータを関係者間で準備できると、より短い時間で検討・作業できるのではないか。
- WPT機器を1台測定して電波の強さを確認したら、同じ機種その他の設備に適用しても良いかという点については、技術的に妥当かという点について慎重に検討する必要がある。

☞ 今回の近接結合型WPTの議論を踏まえ、事務局と関係者において、次回までに対処案を検討する。

☞ WPTの対応案及びこれまでの電波の安全性の議論を踏まえ、事務局で**報告書の骨子案を作成し、次回会合において議論する。**